

株式の状況 (平成21年3月31日現在)

株式数及び株主数

| | |
|----------|---------|
| 発行可能株式総数 | 78,000株 |
| 発行済株式総数 | 19,500株 |
| 株主数 | 784名 |

大株主

| | 持株数 | 持株比率 |
|-----------------|--------|-------|
| 株式会社アルゴグラフィックス | 9,900株 | 50.8% |
| セイコーインスツル株式会社 | 4,080株 | 20.9% |
| ジーダット従業員持株会 | 847株 | 4.3% |
| 岩崎 泰次 | 265株 | 1.4% |
| 石橋 眞一 | 150株 | 0.8% |
| 株式会社エスケエレクトロニクス | 90株 | 0.5% |
| 株式会社図研 | 90株 | 0.5% |
| 大日本印刷株式会社 | 90株 | 0.5% |
| 凸版印刷株式会社 | 90株 | 0.5% |
| 仁尾 正彦 | 87株 | 0.4% |

所有者別状況

| 所有者区分 | 持株数 | 持株比率 |
|---------|---------|-------|
| 金融機関 | 48株 | 0.2% |
| 証券会社 | 38株 | 0.2% |
| その他国内法人 | 14,343株 | 73.6% |
| 自己名義株式 | 300株 | 1.5% |
| 個人・その他 | 4,710株 | 24.2% |
| 外国法人等 | 61株 | 0.3% |

株主メモ

| | |
|-------------------|---|
| 上場市場 | JASDAQ |
| 事業年度 | 4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 配当基準日 | 3月31日 |
| 株式の売買単位 | 1株 |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 |
| 同取次所 | みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及 び全国各支店 |
| 公告掲載方法 | 電子公告とし、次の当社ホームページに掲載 します。 (http://www.jedat.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由により、 電子公告をすることができない場合は、日本 経済新聞に掲載します。 |



HP&IRサイトご紹介

URL <http://www.jedat.co.jp/>
IRサイト <http://www.jedat.co.jp/ir/>

当冊子に関するお問合せ先

株式会社ジーダット 経営企画部
E-mail : corporate.planning1@jedat.co.jp



株式会社ジーダット

第 7 期



株主通信

自平成20年4月1日 至平成21年3月31日

表紙の絵は、新旧の日本橋の様子です。
かつて、お江戸日本橋が物流の基点であったように、JEDATも、日本橋から日本EDAの最先端技術を世界に発信し続けます。



証券コード：3841



JEDAT は
Japan EDA Technologies の略です。

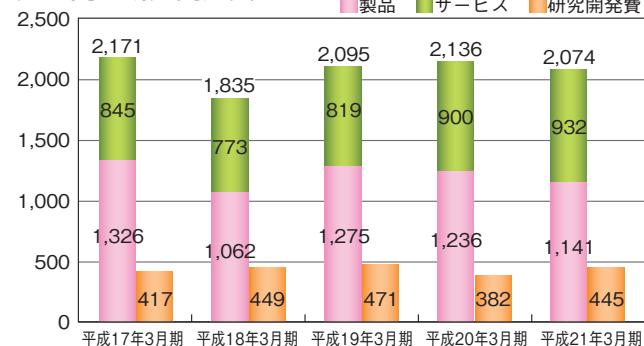
私たちは、日本のEDAのリーダーとして、
電子産業の発展に貢献したいと考えています。

EDA とは
Electronic Design Automation の略です。

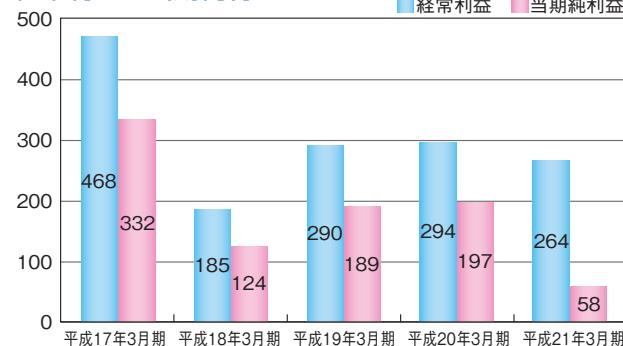
電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア（電子系CAD）で、
設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

財務ハイライト

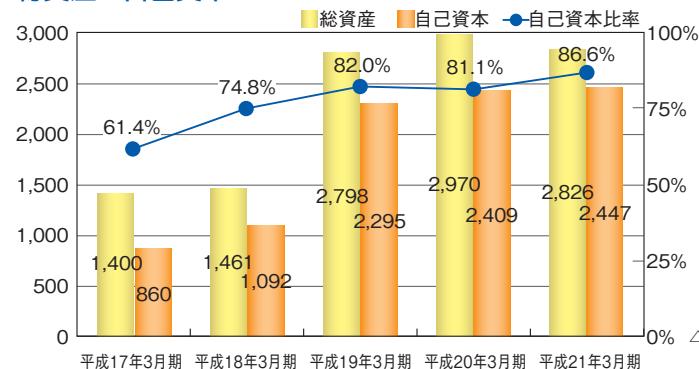
売上高・研究開発費(百万円)



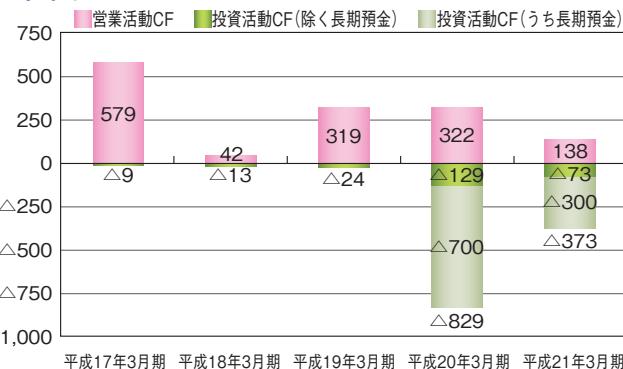
経常利益・当期純利益(百万円)



総資産・自己資本(百万円)



キャッシュ・フロー(百万円)



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より当社企業グループに格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当第7期は上半期と下半期とで、リーマン破綻を契機とした急激な市場の変化がありました。上半期の売上高は前年同期比35%増の1,234百万円と、半期ベースでは創業以来最大となりましたが、下半期は顧客の設備投資予算が軒並み凍結され、売上高は前年同期比31%減の840百万円と、創業以来最小となり、経常利益も創業以来はじめて半期△57百万円の赤字となりました。さらには出資先である米国ベンチャー企業Takumi社も、厳しい環境下において当初事業計画に対して実績が大きく下回る状況となったため、その有価証券を減損処理したことにより、通期の経常利益264百万円に対して当期純利益は58百万円となりました。

当社の顧客業界では、受注が依然大きく落ちたままであり、また一部の品種では在庫が底を打ったと思われるものの生産余力は大きく、設備投資のみならず人件費を含む固定費の大幅な圧縮を余儀なくされています。中でも、EDA業界にとって憂慮すべき問題は、EDA製品の直接の使用者である設計者を含む技術者の減員を国内顧客企業が進めていることでもあります。これは少なくとも当面のEDA製品国内需要の縮小を意味し、価格競争の激化など、当社にとっての事業リスクとなる可能性があります。しかしながら他方では、顧客企業にとって設計者の減員は、設計の生産性向上を最重要課題として要求しますので、カスタム設計分野における自動化技術で先行している当社の絶好のチャンスでもあります。



代表取締役社長
石橋 眞一

市況の厳しさにもかかわらず、当社の事業戦略の大筋に変更はありません。当社は高比率の研究開発投資を今後とも継続し、優位性の高い製品を中核として、厳しい時代に対応した設計フローを提供してまいります。一昨年より開発を進めておりました回路設計分野向けの複数の新製品も第8期には順次リリースされる予定です。しかしながら、第8期は引き続き極めて厳しい経済環境が予想され、顧客の設備投資予算も大きく抑えられています。加えて、上記新製品等の効果も、EDAでは通常緩やかにしか出てこないため、第8期の売上高は前期比21%減の1,630百万円を予想しております。また利益は大幅な固定費圧縮を行うことにより、営業利益が2百万円の黒字、経常利益は85百万円を見込んでおります。

当社は第8期を出直しの年と位置付け、新たな気持ちでチャレンジしてまいります。株主の皆様の一層のご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

当社の事業戦略

高比率の研究開発投資を継続し、厳しい時代に対応した設計手法の改革に挑戦してまいります。

世界的な景況悪化により、デジタル家電、携帯機器等の電子機器業界は、急激な需要の減少や価格の下落に厳しい対応を余儀なくされております。川上の電子部品メーカーはこれらの影響を直に受けており、従来に増してコスト削減や省エネ化、性能アップ、短期開発等が強く求められております。これらの要請は、即、設計者への厳しい要請となり、設計者の負荷は大きく増大しております。加えて人員削減施策による設計者の減員があり、設計における生産性の大幅な向上と設計品質の両立が大きな課題となっております。

中でもクラフトマン的色彩の濃く残っている、アナログLSIやLCDドライバー等のカスタム設計分野は、自動設計の進んだデジタル設計分野に比べて、生産性向上の大きなネックとなっており、この厳しい時代に適応するには、従来の延長での改善レベルではなく、新しい設計手法による「改革」が求められているといえます。当社は、EDA全体を広く対象としている大手競合に対して、カスタム設計分野にフォーカスし、この分野での強みを活かして顧客における「改革」に挑戦してまいります。



レイアウト設計工程でのシェア拡大—新設計手法の普及

当社は、カスタム設計分野の中でも、設計の下流であるレイアウト設計の自動化において先行しております。設計の初期段階における高速高精度の見積り機能や、素子の生成、配置、配線等の自動機能を活用した新しい設計手法により、熟練設計者のこだわりを活かしつつ、設計期間を大幅に短縮いたします。多くの場合設計手法の変更は、設計者にとって一時的に大きな負担であり、特にカスタム設計分野では、各社各様の流儀であるため、新設計手法の普及には時間がかかります。

当社では、すでに従来の設計手法と比較して1/3~1/5に設計期間を短縮した実績があり、この厳しい景況をチャンスと捉えて、設計期間短縮の実例を強くアピールしてまいります。更には、新設計手法に対する顧客の評価期間をできるだけ短縮し、また導入効果を早く出すために、顧客へのコンサルテーション力を強化するとともに、顧客と共同作業のできるプロジェクトルームを本年8月の本社移転に合わせて新設予定であります。

回路設計工程での製品強化による販売拡大

カスタム設計分野における設計の上流である回路設計工程では、近年、回路規模の増大やスピード、低消費電力、高周波等、要求仕様が高度になるに従い、設計品質レベルを保持するために、回路シミュレーションの要求回数が大きく増大しています。他方で設計期間の延長が許される状況ではなく、このため、高精度シミュレーションの大幅な高速化と効率の良い回路解析が極めて重要な課題となってきております。

当社ではこのような課題を解決するため、ベテラン回路設計者の採用や顧客回路設計者のプロジェクト参画等、製品仕様の精査を十分に行い、また最先端の並列処理方式の研究結果を盛り込む等意欲的に取り組み、当期には複数の新製品をリリースする予定です。当社における回路設計分野の現時点での売上比率はわずかであり、今後、レイアウト設計分野と並ぶ大きな柱として育てていくことで、安定した成長を目指します。

海外市場での販売の拡大

海外市場では、従来より販売代理店等の拡充を進めてまいりましたが、世界的景況悪化の中でも、特にLCDパネル市場が伸びつつある中国、及びLCDパネルや半導体で世界的に大きなシェアを持つ韓国、そして日本との事業・技術の交流が深い台湾を主なターゲットとして、販売を強化いたします。中国市場では、販売代理店を強化するとともに、中国北京の開発子会社に販売サポート機能を拡張し、合わせて顧客サポート強化のため、上海に専従のアプリケーションエンジニアを配置いたします。また韓国市場、台湾市場に対しては、現地アプリケーションエンジニアの教育を強化し、日本からの出張支援増強により、現地代理店の営業力・サポート力を強化してまいります。

海外市場での販売促進に当たっては、特にLCDパネル市場における当社の大きな優位性を戦略的に活用し、早期の売上拡大を目指します。



業績の概要

世界規模の経済危機の中、営業利益は2.5%UP

当社企業グループの主要な顧客である半導体ならびに液晶等の製造業は、全世界的規模で経済危機が深刻化する中で、受注の激減および価格下落により企業業績が悪化し、設備投資予算の凍結が相次ぎました。当社企業グループの業績もこの影響を受け、上期は当初計画通りに推移いたしましたが、下期は当初計画の売上を達成することが困難となりました。しかしながら、主力製品である「α-SXシリーズ」の自動設計製品を中心として、顧客毎の設計生産性・設計品質の向上に直結するような機能強化を図り、さらに当社企業グループが提案する新設計手法の普及を図るために、サービス・サポート体制の充実を図った結果、利益率の良い自社開発製品の売上が伸び、営業利益では前年同期比で若干

の増益を達成いたしました。また、厳しい事業環境の中でも、高比率の研究開発投資を継続し、当社企業グループが強みを持つレイアウト設計工程の上流に位置する回路設計工程が抱える様々な課題を解決する新製品の研究開発も進めました。

当連結会計年度における連結売上高は、20億74百万円（前年同期比2.9%減）、連結営業利益は2億27百万円（同2.5%増）、連結経常利益は2億64百万円（同10.2%減）となりました。また当連結会計年度において、当社が保有する「その他有価証券」に区分される有価証券の減損処理による投資有価証券評価損1億21百万円を特別損失として計上したため、連結当期純利益は58百万円（同70.1%減）となりました。

(単位:百万円)

| | 平成18年3月期業績 | | 平成19年3月期業績 | | 平成20年3月期業績 | | 平成21年3月期業績 | | |
|------------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|--------|
| | 実績 | 売上高比 | 実績 | 売上高比 | 実績 | 売上高比 | 実績 | 売上高比 | 対前年同期比 |
| 売上高 | 1,835 | 100.0% | 2,095 | 100.0% | 2,136 | 100.0% | 2,074 | 100.0% | △2.9% |
| 売上総利益 | 1,284 | 70.0% | 1,473 | 70.3% | 1,478 | 69.2% | 1,474 | 71.1% | △0.2% |
| 販売費及び一般管理費 | 1,141 | 62.2% | 1,266 | 60.4% | 1,256 | 58.8% | 1,247 | 60.1% | △0.7% |
| 営業利益 | 142 | 7.8% | 207 | 9.9% | 221 | 10.4% | 227 | 11.0% | +2.5% |
| 経常利益 | 185 | 10.1% | 290 | 13.9% | 294 | 13.8% | 264 | 12.8% | △10.2% |
| 当期純利益 | 124 | 6.8% | 189 | 9.0% | 197 | 9.2% | 58 | 2.8% | △70.1% |

製品売上は7.6%減、サービス売上は3.6%増

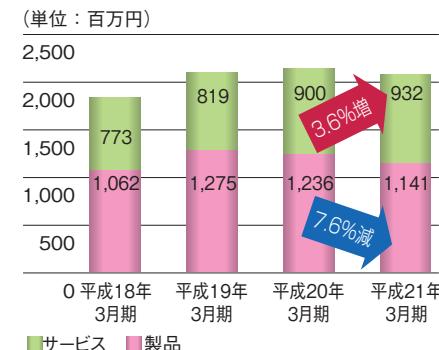
当連結会計年度における当社企業グループの売上高は、製品及び商品売上高は11億41百万円（前年同期比7.6%減）、サービス売上高は9億32百万円（同3.6%増）となりました。製品及び商品売上高については、新製品の投入や新規顧客の獲得に活発な営業活動を展開してまいりましたが、第3四半期以降、顧客企業の設備投資予算の凍結が相次いだことにより減収となりました。サービスに関しては、既存顧客の生産性向上により一層貢献するため、顧客の要求に直結するサービス・サポート体制の強化および製品のバージョンアップ内容の充実に努めてまいりました。さらに、サービス売上は期初の年間契約ベースが多く、第3四半期以降の影響が軽微

であったこともあり、増収となりました。

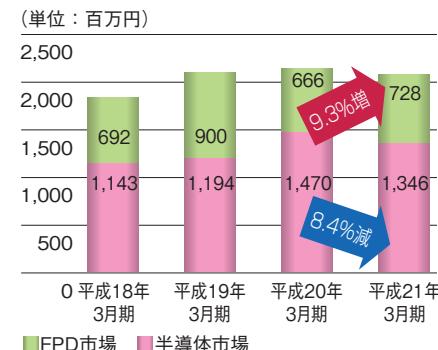
半導体市場、FPD市場の区分で見ると、半導体市場の売上高は13億46百万円（同8.4%減）と市場動向の影響を直接受けましたが、FPD市場については、顧客企業間の再編による設計環境の見直し等も影響し、前年同期と比較すると売上が回復し7億28百万円（同9.3%増）となりました。

自社開発製品、代理販売製品の区分で見ると、自社開発製品による売上高は前述のとおり伸び18億41百万円（同0.3%増）となりましたが、代理販売製品については前年度から投入したDFM分野の市場開拓の遅れ等により、売上高は2億33百万円（同22.7%減）となりました。

事業別売上高の推移



市場別売上高の推移



製品区分別売上高の推移



連結財務諸表 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

連結貸借対照表

| 科目 | (単位:千円) | |
|-------------|-------------------------|-------------------------|
| | 当連結会計年度 (平成21年3月31日) | 前連結会計年度 (平成20年3月31日) |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | ① 1,474,046 | 1,894,038 |
| 現金及び預金 | 1,070,778 | 1,348,367 |
| 受取手形及び売掛金 | 298,703 | 421,216 |
| たな卸資産 | 13,180 | 27,965 |
| 繰延税金資産 | 39,963 | 56,056 |
| その他 | 54,821 | 45,232 |
| 貸倒引当金 | △3,400 | △4,800 |
| 固定資産 | ① 1,352,891 | 1,076,873 |
| 有形固定資産 | 21,063 | 24,845 |
| 無形固定資産 | 40,466 | 8,252 |
| ソフトウェア | 40,466 | 8,252 |
| 投資その他の資産 | 1,291,361 | 1,043,775 |
| 投資有価証券 | ② — | 100,200 |
| 長期貸付金 | 3,518 | 5,902 |
| 繰延税金資産 | 207,281 | 181,926 |
| 長期預金 | 1,000,000 | 700,000 |
| その他 | 80,561 | 55,746 |
| 資産合計 | 2,826,938 | 2,970,911 |

① 流動資産、固定資産

流動資産の減少、固定資産の増加は、主に現金及び預金のうち3億円を長期預金へ預入れしたことによるものであります。

| 科目 | (単位:千円) | |
|--------------|-------------------------|-------------------------|
| | 当連結会計年度 (平成21年3月31日) | 前連結会計年度 (平成20年3月31日) |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 379,282 | 561,081 |
| 買掛金 | 63,239 | 148,788 |
| 未払法人税等 | 28,900 | 115,204 |
| 賞与引当金 | 80,226 | 87,790 |
| その他 | 206,915 | 209,298 |
| 負債合計 | 379,282 | 561,081 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 2,449,435 | 2,428,836 |
| 資本金 | 760,007 | 760,007 |
| 資本剰余金 | 890,558 | 890,558 |
| 利益剰余金 | 831,547 | 810,948 |
| 自己株式 | △32,676 | △32,676 |
| 評価・換算差額等 | △1,780 | △19,007 |
| その他有価証券評価差額金 | ② — | △21,740 |
| 為替換算調整勘定 | △1,780 | 2,732 |
| 純資産合計 | 2,447,655 | 2,409,829 |
| 負債純資産合計 | 2,826,938 | 2,970,911 |

② 投資有価証券

当連結会計年度において、「その他有価証券」に区分される有価証券の減損処理により、投資有価証券評価損121,940千円を特別損失として計上いたしました。

連結損益計算書

| 科目 | (単位:千円) | |
|--------------|--|--|
| | 当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日) |
| 売上高 | 2,074,476 | 2,136,528 |
| 売上原価 | 599,740 | 658,381 |
| 売上総利益 | 1,474,736 | 1,478,147 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,247,170 | 1,256,234 |
| 営業利益 | 227,566 | 221,912 |
| 営業外収益 | 37,116 | 75,830 |
| 営業外費用 | 35 | 2,989 |
| 経常利益 | 264,647 | 294,753 |
| 特別利益 | 1,400 | — |
| 特別損失 | ② 121,940 | — |
| 税金等調整前当期純利益 | 144,107 | 294,753 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 94,371 | 146,438 |
| 法人税等調整額 | △9,262 | △49,144 |
| 当期純利益 | 58,999 | 197,459 |

連結株主資本等変動計算書

| | (単位:千円) | | | | | (単位:千円) | | | 純資産合計 |
|-------------------------------|---------|---------|---------|---------|-----------|------------------|--------------|----------------|-----------|
| | 株主資本 | | | | | 評価・換算差額等 | | | |
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券 評価差額金 | 為替換算 調整勘定 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 平成20年3月31日残高 | 760,007 | 890,558 | 810,948 | △32,676 | 2,428,836 | △21,740 | 2,732 | △19,007 | 2,409,829 |
| 連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △38,400 | | △38,400 | | | | △38,400 |
| 当期純利益 | | | 58,999 | | 58,999 | | | | 58,999 |
| 株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額) | | | | | | 21,740 | △4,512 | 17,227 | 17,227 |
| 連結会計年度中の変動額合計 | — | — | 20,599 | — | 20,599 | 21,740 | △4,512 | 17,227 | 37,826 |
| 平成21年3月31日残高 | 760,007 | 890,558 | 831,547 | △32,676 | 2,449,435 | — | △1,780 | △1,780 | 2,447,655 |

連結キャッシュ・フロー計算書

| 科目 | (単位:千円) | |
|--------------------|--|--|
| | 当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 138,933 | 322,483 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △373,609 | △829,803 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △38,400 | △61,926 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △4,512 | 234 |
| 現金及び現金同等物の増減額(減少△) | △277,589 | △569,011 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,348,367 | 1,917,379 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,070,778 | 1,348,367 |

1株当たり情報

| | |
|------------|-------------|
| 1株当たり純資産額 | 127,482円06銭 |
| 1株当たり当期純利益 | 3,072円86銭 |

EDS Fair2009に出展

当社は、2009年1月22日(木)、23日(金)の2日間、パシフィコ横浜で行われた、Electronic Design and Solution Fair 2009 (EDS Fair2009) に出展いたしました。

今回の展示会では、『お客様の設計環境におけるトータルな設計品質の向上と大幅なコストダウン』をテーマに、当社が得意としているレイアウト設計分野に加えて、新開発の上流設計に関するご提案や、ライブラリの生成や検証に関するご紹介を行いました。

あいにくのお天気にも関わらず、ジーダットのブースへは多くのお客様にご来場いただき、ステージプレゼンテーション、オープンデモンストレーションコーナーともに大変ご好評をいただきました。



NEDOから技術移管を受けてSRAM特性ばらつき解析の600倍高速化に成功

2009年2月4日、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) は、当社が開発した世界最高クラス性能のSRAM*特性ばらつき解析技術に関する発表を行いました。この解析技術は、NEDOから移管を受けた技術に基づいています。今回の成果は、精度を維持しながら従来比600倍以上の性能で、SRAMの特性ばらつき解析を行う技術を確立したものです。

当社では本技術の1~2年以内での製品化を目指しております。

*SRAM (Static Random Access Memory)

読み込み、書き込みが可能なメモリ (RAM) の一種で、一時的にデータを保持するための揮発性メモリ (電力の供給がなくなると、記憶内容が失われるメモリ (volatile memory)) のことです。主に、マイクロプロセッサの内部メモリとして使われています。

2009年8月 本社を日本橋人形町に移転いたします

当社は、事業の多様化への対応、及びお客様向けサービス向上の一環として、2009年8月中旬、日本橋人形町に移転いたします。新しいオフィスでは、お客様との共同開発を促進できる様、専用のプロジェクトルームを新設する予定です。

新住所
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二丁目26番5号
日通人形町ビル
※地下鉄人形町駅から徒歩約2分です。



会社概要 (平成21年3月31日現在)

| | |
|------|---|
| 商号 | 株式会社ジーダット (Jedat Inc.) |
| 所在地 | 〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町6-6 |
| 代表者 | 代表取締役社長 石橋 眞一 |
| 営業開始 | 平成16年2月2日 |
| 資本金 | 760,007,110円 |
| 事業内容 | 電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルティング |
| 関連会社 | 株式会社ジーダット・イノベーション (Jedat Innovation Inc.) 福岡県北九州市若松区ひびきの2-5 情報技術高度化センター 績達特軟件 (北京) 有限公司 (Jedat China Software Inc.) 北京市西城区新街口外大街28号B座409-412室 URL http://www.jedat-soft.com.cn 株式会社A-ソリューション (A-Solution Inc.) 東京都中央区日本橋小舟町6-6 |
| 所属団体 | 社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 社団法人 日本半導体ベンチャー協会 (JASVA) 有限責任中間法人 日本エレクトロニクスショー協会 (JESA) 日本EDAベンチャー連絡会 (JEVeC) |

役員 (平成21年6月17日現在)

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 代表取締役社長 | 石橋 眞一 |
| 取締役 | 増山 雅美 (経営企画部長) |
| 取締役 | 山城 治 |
| 取締役 | 香月 弘幸 (システム部長) |
| 取締役 | 藤澤 義麿 ((株)アルゴグラフィックス 代表取締役会長 兼 CEO) |
| 取締役 | 伊藤 俊彦 ((株)アルゴグラフィックス 執行役員) |
| 取締役 | 伊藤 吉昭 (セイコーインスツル(株) 執行役員) |
| 常勤監査役 | 飯村 雄次 |
| 監査役 | 吉田 隆男 |
| 監査役 | 中村 隆夫 ((株)アルゴグラフィックス 執行役員) |